

(佐々木注) 1997年7月31日作成

原題「78期全国大会」原文はB5版2ページ。

以下、原文をそのままにA4版に変換し、欄外にページを付与したもの。

兵 78 期全国大会祝辞(1997 年)

78期全国大会

第78期の皆さん、盛大な創立30周年記念札幌大会おめでとうございます。去年は残念ながら出席できませんでしたが、本年はこうして皆さんの和気藹々としてしかも熱い気持の溢れた全国大会の雰囲気と接する事ができ誠に嬉しく思います。それにつけても、これだけの大会を計画準備された関係の方々のご努力とご苦勞のほどをお察し申し上げます。またこの前も申しましたが、在校期間僅か4ヶ月半の皆さんが、全国各地に分散した相互の連絡を確保してクラス会組織を作り上げ、30年にわたりこれを維持発展させながら、針尾分校の碑の建設や、「針尾の島の若桜」の編纂発行、さらには水交會や連合クラス会への寄与貢獻など、その団結と活動は見事というほかはありません。帝国海軍の伝統と海軍兵学校の精神は、脈々として皆さんに伝わり、最後のクラスにしっかりと守られているとの思いを深くする次第であります。

ところで昔海軍で教わったことの一つに、急、急、だらり、だらり、急、ということがありました。緊張とリラックスのリズムの大切なことを教えたものですが、このリズムがうまくいってこそ効率も良ければ、士気も上がるというものです。そのリズムも短期的なものもあれば、長期的なものもありましょう。皆さんもこの50余年、日本を再建し豊かな社会を築くために血の出る努力を重ねられてきたわけですから、こころでゆっくり人生を楽しみ、奥さんをいたわるだらりの時期とされるのも大変結構でしょう。「豊かな自然、北の大地」をゆっくりお楽しみ下さい。ただし、だらりの後には急があります。人生最後の急とは何か、私は美しく老いることではないかと思ひます。何を以て美しく老いたとするか、どうすれば美しく老いられるか、私ども一人一人に対する課題でしょう。

話が飛びますが、先日ある先輩がこんな話をしておられました。その方のクラスは、毎月在京の数人の人たちが集って懇談するのが例になっているそうですが、その会合である人が、「せつかく今まで生きてきたのだから皆元気で21世紀を迎えようではないか」と言ったところ、別の人が「俺はこんな薄汚れた日本のこれ以上の行く末はもう見たくないよ」と応じた。自分も全くそうだと同感した。暗い気持で帰りの満員電車に乗ったところ前にすわっていた髪を染めた一見不良風の女の子がさっと立上がり席を譲ってくれた。その途端未だ日本も捨てたものではないとほのぼのとした気になった。これが先輩の話です。細川侵略発言以来の政府、国会の謝罪声明や決議、今年になっての玉串料違憲の最高裁判決、民族の誇りも捨てたような対外姿勢、政官財各界の根の深い腐敗などの日本の現状を見るとき、「こんな日本にするために幾多の英霊は命を捧げたのか」との空しい思いを禁じ得ないのも事実です。しかしその中でも、阪神大震災や日本海の重油流失事件に示された若い人々の意欲は、捨てたものでもないとの希望を与えるものであります。大切なことはいかに若い人の意欲を引出し、正し

い方向に導くかでありましょう。これからの日本を背負う若い人に正しい歴史観を与え、日本人としての誇りを取り戻し、そしてかつてサッチャー首相が、WE SEEK PEASE WITH FREEDOM, NOT PEASE AT THE EXPENSE OF FREEDOM と叫んで全英国民の共感を得たように、平和や人権や個人の生命も大切であるが、ときには、これらを犠牲にしても守らなければならない価値のあることを、しっかりと伝え残すことこそ、我々の残された人生の生甲斐ともすべきではなからうか、そしてそれが美しく老いることにも通じるのではないかと思うこの頃であります。

言うまでもありませんが水交会は、戦没者等の慰霊顕彰と海軍の伝統の継承、さらに今回加わりました海上自衛隊に対する協力を主要な目的とする財団法人です。兵学校最後のクラスである皆様のご支援によりまして、今後とも会勢を維持し目的達成のため活動できますようよろしく願いいたします。ここにあらためて78期クラス会の一層のご発展と会員の皆様のご健康を祈って祝辞と致します。